

茨城県南部におけるハシボソガラスとハシブトガラスの営巣環境選択

○百瀬浩・吉田保志子・山口恭弘（中央農研・鳥獣害研究室）

カラス類は、農業被害の報告において被害面積、被害量ともに鳥類の中で最大である。カラス類による被害は対象作物や時期が多岐にわたるため、被害軽減には生息地管理等による長期的な個体群管理が必要と考えられるが、農村地域における環境選好や生息密度などの基礎的な情報は不足している。茨城県南部の平地農業地域では、これまでのセンサス調査からハシボソガラス、ハシブトガラス（以下ボソ、ブト）が普通に生息し、両種とも農作物を食害するが、生息密度は環境により異なることがわかっている。土地利用などの環境条件から両種の生息状況を予測できるようにするためには、環境選択についてより詳細な情報が必要である。そこで、平地農業地域および住宅地、森林において、両種の営巣環境選択を明らかにした。

つくば市周辺の南北 31 k m 東西 15 k m の範囲に、畑を中心として水田・集落・林が混在する調査地 2 ヶ所 (12 k m²、20 k m²)、水田を中心として集落が混在する調査地 1 ヶ所 (12 k m²)、および、比較のために住宅地の多い調査地 1 ヶ所 (8 k m²)、ほぼ全域が森林の調査地 1 ヶ所 (6 k m²) の合計 5 ヶ所 58 k m² を選定し、両種の繁殖期である 2005 年 2 月下旬から 8 月上旬にかけて、自動車、自転車、または徒歩により 4~6 回、くまなく巡回し巣および繁殖行動（巣の見張り、巣材運び、餌運び、ヒナ連れ家族等）の発見に努めた。

畑を中心とする調査地および住宅地の多い調査地では、ボソ、ブトともに営巣密度は 1.8~3.6 巣/k m²であった。水田を中心とする調査地では、ボソ (2.5 巣/k m²) に比べてブト (0.8 巣/k m²) の営巣が少なかった。森林の調査地では、営巣が確認されたのはブトのみで、場所は人家等に近い場所に限られ、密度は低かった (0.5 巣/k m²)。なお、数値は 7 月上旬までの調査に基づく暫定値である。ボソの営巣場所はブトに比べて小さい林が多く、孤立木や高圧鉄塔への営巣も多く見られた。ブトは高圧鉄塔にも一部営巣したが、大部分の個体は大きな林に営巣していた。